

洪水

洪水の特徴

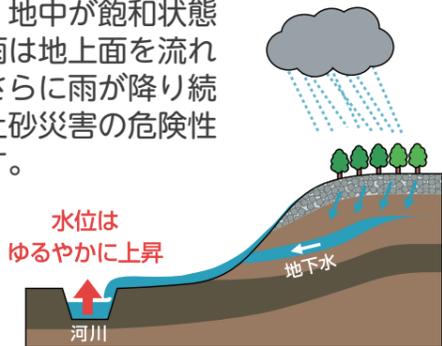
強い雨が、広範囲に、長時間続くときには、河川が氾濫する危険性が高まります。堤防決壊の前兆に注意が必要です。

■堤防決壊の前兆現象

- ・堤防の川側が崩れ始めたとき
- ・水が激流となって、堤防の土が削り取られたり、護岸が壊れ始めたとき
- ・堤防の側面から水が漏れ出したとき
- ・増水が早く、水が堤防を超えそうなとき
- ・水かさが増し、堤防に亀裂が生じたとき
- ・堤防近くの地盤から、水が噴き出すとき

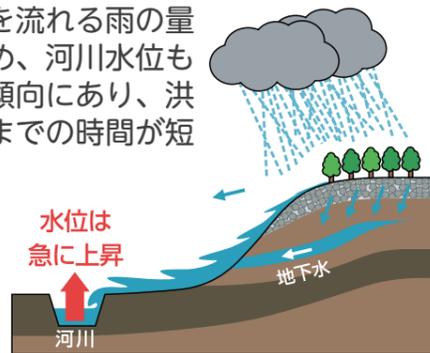
降雨による洪水の発生過程

・地上に降った雨が地中へ浸透し、その後、地中が飽和状態になると、雨は地上面を流れ出します。さらに雨が降り続けると洪水や土砂災害の危険性が高まります。



豪雨による洪水の発生過程

・豪雨時は、地中へ浸透する雨よりも地表面を流れる雨の量の方が多いため、河川水位も急に上昇する傾向にあり、洪水が発生するまでの時間が短くなります。

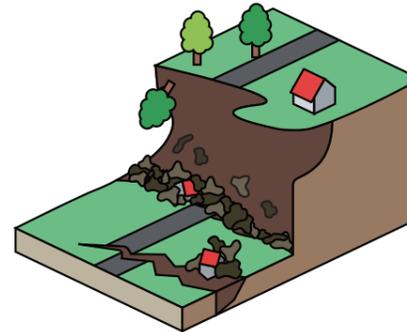


土砂災害

土砂災害の種類

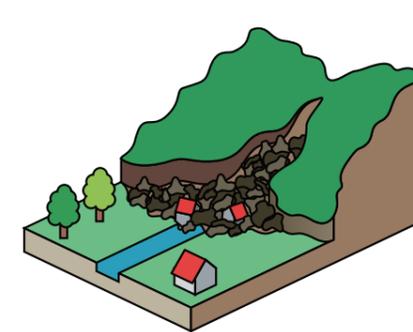
土砂災害には、「急傾斜地崩壊(がけ崩れ)」「土石流」「地すべり」の3つの種類があり、地震や雨により発生します。また、突然発生することから予測は非常に難しく、被害が繰り返し起こることがあります。

急傾斜地崩壊



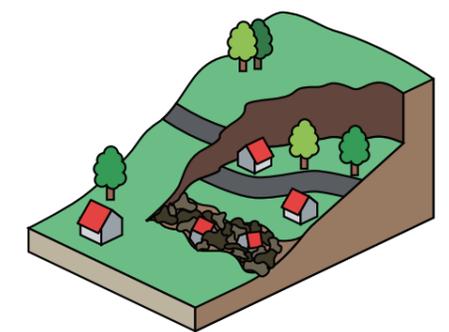
- ・大雨などで、地面にしみ込んだ雨水により、急な斜面の土砂が崩れ落ちるのが「急傾斜地崩壊(がけ崩れ)」です。
- ・斜面の崩壊は突然起こりスピードも早いため、逃げ遅れるなど人的被害の多い災害です。

土石流



- ・谷底の土砂や山腹から崩れた土砂が水と一体となり、谷を一気に流れ下るのが「土石流」です。
- ・一瞬のうちに人家や田畑などを壊滅する恐ろしさから、山津波とも呼ばれています。

地すべり



- ・山すそや丘陵地などの斜面などで、地中のすべりやすい地層を境に地面がそっくり動き出すのが「地すべり」です。
- ・その発生規模は広範囲にわたり、人家や田畑が崩壊してしまうこともあります。



あらかじめ確認しておきましょう 裏表紙 ※我が家の防災メモ

- ・洪水や土砂災害が起こりそうな場所、避難先や避難経路、家族間の連絡方法などを、あらかじめ確認しておきましょう。

気象情報や避難情報に注意しましょう P.2 ※防災情報の伝達手段

■気象情報を確認しましょう

- ・ラジオ、テレビ(ケーブルテレビ)、インターネットなどを利用して、最新の防災気象情報を入手しましょう。
- ・町内の防災行政無線の放送内容や雨量情報は、パソコンや携帯電話でも確認できます。

■避難情報が出ていませんか?

- ・町から避難に関する情報が発表されていないか確認しましょう。



早めの避難を心がけましょう

- ・洪水や土砂災害発生の危険を感じたら、避難情報が発令されていなくても、できるだけ早めに安全な場所へ避難しましょう。
- ・避難の際は、安全で動きやすい服装で避難しましょう。また雨風に備えて、レインコート・防寒具などを用意しましょう。

非常持出品を備えておきましょう 裏表紙 ※持出品チェックリスト

- ・各家庭に必要な非常持出品を準備して、まとめて持ち出しやすい場所に置いておきましょう。



避難することが困難な場合

■すでに浸水している場合/外に出ることが困難な場合

- ・すでに浸水が始まっている場合や、台風などで風雨が強まっているときに外に出ることは大変危険です。
- ・無理な避難をせず、近くの丈夫な建物や自宅の2階以上などへ避難して安全を確保しましょう。

■がけ崩れの場合

- ・無理な避難はせず、土砂災害の危険がある場所から少しでも離れ、近くの丈夫な建物や自宅の2階以上の山から離れた部屋へ避難して安全を確保しましょう。

■土石流の場合

- ・危険な沢からできるだけ離れるように避難して安全を確保しましょう。

